

地域の概要



戦後まちづくりが始まり、昭和20年代にできた旧住宅街と昭和40年代に造成された新興住宅街からなる地域。平成8年に県庁が移庁される。高齢化率は37.3%。

取組のきっかけ

個々に奉仕活動をしていた人が集まり、趣味活動の講座等もしていた。1名がみんなサポ応援講座を受講したことがきっかけで、勉強会につながり、支え合い活動への意識が高まっていった。そこから校区コミュニティ協議会で具体化し組織化した。

取組の目的

- 住み慣れた地域において社会から孤立することなく安心して暮らすことのできる地域づくり
- 人々が集う、活気と魅力のある地域づくり
- お互いを思いやる地域づくり

これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年	1名がみんなサポ応援講座（支えあい活動従事者研修受講）
令和2年2月	受講者から仲間とともに詳しい話を聞きたいとSCに連絡がある。有志が集まる場にSCも参加し、活動に向けた話し合いがはじまる。
令和2年8月	SCがコミュニティ協議会 社会教育部会主催「成人学級」にて「支えあい事業について」と題して1時間支えあい啓発を行う。参加者15名。
令和2年10月	有志にて支えあい活動を始めている。活動が軌道に乗れば補助申請を検討したい。
令和3年2月	鹿児島市支えあい活動補助金の申請を行う。
令和3年2月	鴨池校区コミュニティ協議会の事務局を支えあい活動団体みんなサポかもいけの事務局とする。
	支えあい活動の広報として、鴨池校区コミュニティ協議会の発行するLLかもいけにチラシを掲載。LLかもいけのポスティング作業を活動員が見守り活動の一環として開始する。
令和3年4月	LLかもいけのチラシを見た方から、電球交換や草払いなどの依頼がくる。
令和3年	鴨池校区コミュニティ協議会の事務局から登録している希望者へ週3回午前中（月・水・金）に個別の電話連絡を行う、見守りコール開始。必要に応じて、支え合い活動団体へのマッチングを行う。

活動の概要

◆活動内容

見守りコール、校区情報誌ポスティング時の見守り（毎月全戸配布）
高齢者110番：困りごと等の相談対応・生活支援（庭の手入れ、ゴミ出し等）

◆利用料金： 1時間500円（活動員1名につき）

◆対象者： 校区内の地域住民（特に高齢者）

◆活動会員： 44名（男性29名、女性15名）

調整役（12名）・高齢者110番（10名）、見守りコール（1名）・見守りポスティング（30名）

◆活動にかかわる人

- 校区コミュニティ協議会：【事務作業】と【問い合わせ窓口】のサポート
 - ・ 校区情報誌への掲載、サポートマップ作成等、ネットワークや広報活動
 - ・ 校区コミュニティ協議会事務局：月・水・金曜日の9時～12時／火・木曜日10時～12時
高齢者110番、見守りコールの窓口対応と事務作業全般
- 民生委員児童委員協議会、消防分団

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- 事業の枠組み、仕組み作り
- 周知広報（HP等に事業内容掲載）
- 担い手育成
（支えあい活動従事者研修会実施）

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する相談
- 活動状況の把握
- 支援が必要な方とのマッチング
- 補助金に関する事務手続きのサポート

現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 活動を通して、コミュニケーションの輪が広がることで新たな仲間が増える
- 利用者と接することで、活動員に充実感が生まれる

〔課題〕

- 若手の担い手の加入